

総合科目「歯学概論 I・II」

歯学部 花田 晃 治

A Report on the Omnibus General Subject “An Introduction to Dentistry”

Kooji HANADA (School of Dentistry)

A report on the omnibus general subject “An introduction to dentistry” was opened to the dental students and others. There were students from Faculties of Education, Law, Economics, Science, Engineering and Agriculture. This subject consisted of 22 lectures on the different aspects of basic and clinical dentistry.

Oral cavity, that is, mouth has so many functions of feeding, biting, chewing, swallowing, speech, respiration, expression, and so on. It might be useful for the students in the various fields to understand the functions of the oral cavity in order to advance their fields and sciences.

key words: Omnibus general subject, Dentistry, Oral cavity, Mouth

はじめに

歯学部に入学者に対して「歯学」とは何かを知ってもらうためのアーリーエクスポージャーの一つとして「歯学概論」を開設するとともに、他学部学生に対しても、自分の最も身近で重要な役割を果たしている口について理解してもらうこととした。

講義の内容

「科目の概要」

この講義は歯学部の基礎・臨床双方の教官が交替で、毎週1回担当するという形式をとったので、そこから生じた効果及び問題点についてまとめた。

口は食物摂取の他に、発語にも関与するヒトの身体の中で重要な器官の一つである。口は唇・頬・舌などの軟組織、歯や顎骨などの硬組織、唾液腺などで構成されているが、口の中でもっとも特徴的な点は、歯の存在であるといえる。口の中で歯はどのような働きを担っているのだろうか？周囲の軟組織や骨とはどのような関連を持ち、いかなるメカニズムでいろいろな機能を果たし、または助けているのだろうか？口や

歯に異常が生じた場合には、どうなるのであろうか？

普段あまり気にしていない身体の巧妙なメカニズムの不思議について考える。

「授業計画」

歯学の歴史	小澤英浩
歯の痛みと噛みごたえ	前田健康
噛むことと味わうこと	山田好秋
唾液の分泌と蛋白質の細胞内輸送	織田公光
医学生物学のための情報収集管理論	朔 敬
ヒトと細菌	星野悦郎
生体内情報伝達の基礎と薬物の作用	川瀬知之
歯科材料の現在と未来	宮川 修
疾病予防の考え方	宮崎秀夫
う蝕及びその继发疾患と治療法	岩久正明
歯周病の成り立ちと免疫応答	原 耕二
口の中の炎症と癌	中島民雄
手術による顎口腔の形態と機能の回復	大橋 靖
言語病理学概論	磯野信策
機能と形態—咀嚼と歯の形態—	河野正司
顎の機能障害—顎関節症—	野村修一
第3の歯、歯科インプラント	草刈 玄
環境の変化と歯並びの異常	花田晃治

小児の口腔の発達
顎顔面の画像診断
痛みの病気と治療
口の働き・歯の役割

野田 忠
伊藤寿介
染矢源治
花田晃治

「成績評価の方法」

各テーマに対するレポートにより評価する。

授業の方針

ヒトが生きて行く上で重要な役割を果たす「口・口腔」について、形態的、機能的に、総合的に理解してもらうように心がけた。自分ではとかく見落としている口について、視覚素材、特にスライドを多く使用する講義とした。加えて、口腔の機能を多角的に、動きを伴って理解してもらうために、視覚素材、特にビデオも多用した。その効能については次に述べる。

学生の反応

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）から学生の反応を見てみる。

「受講学生の分布」

歯学概論Ⅰについて、所属学部が多い順に挙げると、歯学部46人、教育学部・理学部各14人、法学部8人、工学部6人、農学部3人、経済学部1人であった。歯学概論Ⅱについては、歯学部48人、教育学部19人、法学部17人、経済学部10人、農学部8人、理学部・工学部各4人であった。いずれの場合にも歯学部を主として、他学部も対象として開講したので、歯学部の学生が多くなっている。

「講義についてのアンケート結果」

選択した理由：講義概要を見て内容に興味を持ったもの、指定されていたものが、それぞれ40%以上であるが、簡単に単位が取れそうだったものが10%強いた。単位が取れそうという動機をより積極的な方向に向ける努力が必要であろう。

難易度：わかりやすかったもの、かなりわかりやすかったものが90%である。歯学という特殊な分野ではある

が理解はかなりされたようである。

わかりにくい点：理由として基礎知識の不足を挙げているものが多いが、この科目としてはやむを得ないし、それだけに開講に意義があろう。

得られた点：内容に関して関心が深まったものが、90%に到達しており、効果があったものと思われる。

出席回数：ほぼ全回出席したものが2/3おり、かなり興味を持ってもらえたと思う。

欠席したとき、理解できなかったとき：特になにもしなかったものが、2/3を超えており、ガイダンスをはじめとした対応の必要性を感じる。

主題・テーマ、内容・説明、概念・理論：肯定しているものが70~80%である。

シラバス：必ずしもシラバスの通りに進んでいるとはいえないようである。シラバス作成時に十分な配慮が必要であることと、シラバスに沿った準備を行うことの必要性が指摘されている。

黒板の使い方、板書の文字：肯定的な答えが少ない。

視覚素材：肯定的な意見が多い。

アンケート用紙の裏面に自由に意見を書いているものを見ると、板書が少ないという指摘がある。講義形態としては、板書し、それらをノートに取らせることによって繰り返しの復習ができるという意見がある一方で、黒板に字を書き、それらを書き写すだけではなしに、視覚素材をふんだんに使い、それを見ながら十分に理解した上で自分のノートを創るほうがよいという意見がある。教育工学、教育効果の上では、それぞれにメリット、デメリットがあるが、少なくとも歯学部の講義においては、理論・概念よりは立体構造をしたヒト・口の形態、機能を総合的に理解させるには、視覚素材を多く利用した方がよいと考えられている。問題提起型の講義をするためには、板書したものを写すだけでなく、視覚からはいったものを、一度自分なりに反芻、理解することは必要なことと考える。

スライドを映写する際に暗幕を使用すると、特に夏期には講義室の室温が上昇する。学生が講義を快適に聴き、講義の能率を高めるために空調設備の整備が望まれる。